

# 【ファーストステップFX】

## Part1 一流トレーダーへの 道を進む為に

### 第7章

## ライブトレードへ向かう

株式会社チャートマスター

## ❖はじめに

### 【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリック出来ます。出来ない場合は最新の AdobeReader をダウンロードして下さい。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

### 【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものである為、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部を如何なる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

著作権等違反の行為を行なった時、その他不法行為に該当する行為を行なった時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行なう等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行なう場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行なう権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

このレポートを利用する事により生じた如何なる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

## 【ファーストステップFX】Part1第7章ライブトレードへ向かう

### 目次

※目次の見出しをクリックすると、その見出しのページに移動します。

❖ 第7章：(1) ——ライブトレードで初めに考える事——	4
❖ 第7章：(2) ——デモとライブの簡単な違い——	5
❖ 第7章：(3) ——ライブトレードが心理面に与える影響——	6
1. ロスカットが出来なくなる	7
2. 負けが込むとトレード回数が増える	10
3. トレードが苦痛になり、恐怖になる	11
4. システムを疑ってしまう	12
❖ 第7章：(4) ——ライブトレードでは多くの妨害に遭う！？——	14
1. デモとライブで値動きが違う？	14
2. ライブだとスリッページが発生して来る！？	15
3. 儲け過ぎると口座が潰される！？	16
4. ディーリングルームによる、レートが操作が行なわれている！？	17
5. FX会社はトレーダーの注文状況を見れる！？	18
❖ 第7章：(5) ☆★☆第7章のまとめ☆★☆	20

## ❖第7章：（1）——ライブトレードで初めに考える事——

何事も実際に始めようとする、二の足を踏んでしまいます。トレードもそうです。

「特に、もし仮にこのトレードを行なったら、  
自分のお金が減ってしまうかも知れない…」

というイメージを持ってしまい、恐怖心に駆られてトレードが出来なくなってしまう場合があります。 ※これに関しては、「ライブトレードが心理面に与える影響」を参照下さい。

初めてライブトレードを行なう場合は、最小取引通貨単位でトレードをするのがポイントです。自転車に乗り始めの時から、猛スピードで漕ぐ事は出来ませんし、そもそも危ないですよ。

幾ら乗れるようになったとしても、最初の方は恐る恐るの筈です。

トレードも同じで、どれ程、優れたシステムトレードが完成したとしても、恐る恐るトレードをして行く必要があります。最小取引通貨で口座残高を増やす事が出来なければ、適切な取引量でトレードを行なっても、お金を増やす事は出来る訳がありません。

最小取引量で続けて行き、ある程度自信が付いて来たら、そこで初めてリスクを徐々に増やして行って下さい。適切なトレーディングをしているのであれば、それ相応のリターン（結果）が出て来るかと思えます。

リターンを予め決める事は出来ませんが、リスクは予め決める事が出来ます。リスク管理の結果がリターンに繋がります。

初めから過剰なリスクを背負う必要はありません。  
焦らずに、一步一步ずつ進んで行く事が大切です。

[▲目次へ戻る▲](#)

## ❖ 第7章：(2) ——デモとライブの簡単な違い——

デモ口座とライブ口座では、大きく違うものです。  
それを以下に簡単に説明してみました。

### ○デモ口座

- ・架空のお金なので、別に負けても問題ない考える。
- ・勝っても負けても練習なので結果にはこだわらなくなってしまう。
- ・練習やシステムのテストの為にに行なっているので、ルールを破らない（破ったらデモトレードしている意味がない。）。

### ○ライブ口座

- ・本物のお金なので資金が減ったら一大事。
- ・とにかく損失を出すのが嫌だ、怖いと思ってしまう。
- ・練習とは違い、落ち着きがなくハラハラした状態で、本当ならエントリーしない所でエントリーをしたり、エントリー後、含み益の時に「含み損になるのが怖い」という何の根拠もない理由で利食いをしてしまい、結果的に損をしてしまう。

さて、こうして見て頂くと、「ある部分」に非常に偏っているのを気付くかと思います。

それはズバリ、「**トレードの時の心理面に大きく左右されている**」という事です。

実は、「デモ口座なら勝てるのに、ライブ口座で勝てない」というトレーダーの言葉は、この心理面に原因があるからなのです。デモ口座とライブ口座の一番の違いは、「本物のお金か、偽物のお金か」という事です。

[▲目次へ戻る▲](#)

## ❖ 第7章：(3) ——ライブトレードが心理面に与える影響——

デモでは出来ていたものが、ライブになると突然困難になる場面があります。そこには、自分の心理が強く影響して来ます。

具体的にどのようなモノがあるのか、見て行きましょう。

[▲目次へ戻る▲](#)

## 1. ロスカットが出来なくなる

何故、多くのトレーダーは損をするのでしょうか？

シュワルツ：

「ミスを認めるよりも、損をするほうを選ぶからだ。損したポジションを持っているトレーダーの極めつけの正当化は何だと思う？『トントンになったら手仕舞うよ』だ。

トントンで手仕舞う事がどれほど重要だというんだ。自尊心を満足させられるからだろう。私が勝てるトレーダーになれたのは、『自尊心などクソくらえ。金儲けの方がもっと大事だ』と言えるようになったからだ」

(『マーケットの魔術師-米トップトレーダーが語る成功の秘訣』  
第二章株式トレーダー「チャンピオン・トレーダーマーティ・シュワルツ」より)

多くのトレーダーに会い、話を聞いてみると、「ストップ注文を取り消してしまう」という言葉をよく耳にします。

これは実にベタなルール破りの例です。

ストップ注文をしないという事は、何の保険にも入っていない車で危険な道を走るのと同じ事です。まるで事故を起こして下さいと言わんばかりです。トレーディングをする限りリスクからは逃れられません。

しかし、リスクがあつてのリターンなので、リスクとの付き合い方でリターンを調整する事が出来ます。リスクとの付き合い方が重要なのです。

ところが、頭では分かっているのに、ストップ注文を取り消してしまいます。これは一体、何故でしょうか？それは、負けを認めたくない…、と人間が考えるからです。

これは一体、どう言う事でしょうか？こんな経験をされている方がいるかと思います。

ある時、買いポジションを持っていました。ところが、相場は自分の思惑とは裏腹に、どんどん下がって行きます。当時はストップの意味が分かっていなかったため、含み損はどんどん膨らんで行きます。ポジションを持っている自分としては、目に見えて損が膨らんで行くのですから、ハラハラドキドキです。

ところがそんなある時、突然相場が反転します。今まで含み損だった状態が一転して、含み益になりました。

ポジションを持ち続けていたら、プラスに転じたのです。含み損だった期間が長いだけに、これを喜ばない人間はいません。さて、ここには決定的な問題があります。

「ストップを置かずにじっと我慢したお陰で、プラスになった事」

実はこれが、その後のトレードプランを大いに狂わせる甘い経験だったのです。もし仮にこれが、ストップを厳格に置いていて、相場が反転する前に損が出てしまったらどう思いますか？

**「ストップを置かなければ良かった！そのままにしていたらお金が増えていたのに！」**

こう思う事でしょう。そう思った時、人は次にトレードをした時、どんな行動に出るのでしょうか？そうです、「ストップを外す」、もしくは「ストップを動かしてしまう」のです！

何故なら、ストップを置かずにそのままじっと待っていれば、「利益を上げていた」からです。

ですがここに一つ問題があります。

相場はいつも思い通りに戻って来てくれるのでしょうか？「自分は大丈夫！」と思われるかも知れません。しかしそれは、相場がどういうものかを知らない人の言葉です。

確かに相場は戻って来る時もあります。けれどそれ以上に、戻らずに行っただけになる事もしばしばあります。

その時、自分の口座資金は果たして持ちこたえられるでしょうか？

ストップを置いていないので、含み損はどこまでも膨らんで行きます。そして場合によっては、その含み損が証拠金の限界を超えてしまう場合も…。

**そうなったら、破産です。**

投資初心者は、ストップを置かずにいた事で、破産した時に初めて、ストップを置く重要性を理解するのです。もっとも、過ぎたるは及ばざるが如し。破産した時に気付いても、失ったものは元に戻せないばかりか、そのまま投資を続ける事が出来なくなってしまいます。

ストップには、自分の資金を守るという意味があります。別な呼び方で、「プロテクティブストップ」とも言えるように、「守る為のストップ」なのです。

そもそも投資を始めた理由は、人それぞれあると思います。これはつまり、投資の奥に、自分が思い描く未来像を重ねているのだと思います。

投資をする事で、夢が叶うかも？、と知っている訳ですね。

ところが、投資が出来なくなってしまったらどうでしょう？自分が思い描いていた夢が叶わない…、または、遠くなってしまうと考えるようになります。

という事は、投資が出来なくなる…、つまり、投資資金がゼロになるという事は、何としても避ける必要があるのです。

その為に、これからも投資を続けて行けるようにする必要があります。ある一定のラインに達したら、損を確定させて、次のトレードに資金を残すのです。損を回避させる為に一つのポジション、一つのトレードにこだわらず、潔く認めて、次のトレードに備える方がよっぽど意味があります。

[▲目次へ戻る▲](#)

## 2. 負けが込むとトレード回数が増える

トレードには100%はありません。つまり、いつかはどこかで負けるという事です。ところが、人間心理の中では、負けてしまうと、それを取り返そうと躍起になってしまうのです。

しかし、そういった感情になってしまった時、どういう事が起きてしまうのでしょうか？

そもそもシステムトレードをしておけば利益が出る筈なのに、その「システムトレードをする」という事が、出来なくなってしまうのです。

もっと詳しく言うと、「ルールなんて守ってられない。とにかく早くトレードをして、損を取り返さないと！」こう思うようになってしまうのです。

ところがそれをやったとしても、当然ですが儲かる訳はありません。ルールを逸脱してトレードをしているのですから、当たり前ですよ。

けれど、これがきっかけで、今まで守っていたルールが信じられなくなる…、という状況に繋がって行ってしまうのです。悪いスパイラルにハマってしまう原因がココにあるのです。

ですから、ここで出来る事は、冷静になる事しかありません。今自分はどんな精神状態になっているか、客観的に見られるようにならないと、いつまで経ってもこの状態から抜け出す事は出来なんでしょう。

[▲目次へ戻る▲](#)

### 3. トレードが苦痛になり、恐怖になる

初めは意気揚々とトレードをして行くと思います。しかしある時、トレードすれば負ける、そしてまたトレードすれば負けるという状況に陥ってしまう場面が必ず来ます。

これを繰り返していると、徐々に精神が蝕まれ、自分に自信が持てなくなって行きます。それもそうですよね。トレードをすればする程、負けて行くのですから。

投資の世界は特殊で、努力した分だけ結果が出るとは限らず、むしろ頑張れば頑張る程、どうしたら良いか分からなくなってしまいます。ただトレードをすればいつかは良くなる…、というものではないのです。

そして、いつかこう考えるようになります。「自分がトレードをすると、いつも負ける…」と。

こうなった時、たとえそれがシステムトレードであったとしても、そのトレードに自信が持てず、トレードをする事が恐怖に感じてしまうのです。こうなってしまっは大変です。

トレードをしないと夢に近づけないのは分かっているのですが、トレードをするのが怖くて怖くて仕方がなくなります。そして時間だけが過ぎて行ってしまうのです。トレードがストレスになってしまうとも言えますね。

これを解消する為に出来る事は、自分がやっている事を客観的に見る必要があります。それはつまり、システムトレードを厳格にやる事。

もしそれを継続的に続けて行く事で利益が上がると分かれば、そして感情の赴くままにトレードをした所で儲からないと分かれば、しっかりと検証したシステムトレードを続ける癖を付ける、という所に戻って来れます。

そしてそれは前章で記したトレード履歴を紙に記録しよう…という話に繋がって行きます。

[▲目次へ戻る▲](#)

#### 4. システムを疑ってしまう

人間は3連敗をしたら、そのシステム自体を疑います。本当に大丈夫なのだろうか…、そう考えるようになるのです。確かに3連敗をした…、という事実を切り取ってみたら、それはそれで問題があると考えます。

しかし、ここで大切なのは、1ヵ月後、1年後に口座残高が増えている事なのです。目先のシステムの成績がどうであろうとあまり関係ないのです。

それもその筈、どんなシステムでも必ずどこかのタイミングで3連敗程度の連敗を経験します。仮に相場が上がるも下がるも50%だったとしても、**3連敗する可能性は、50%×50%×50%で12.5%の確率で存在**します。

この時点で、100回中12.5回は三連敗をする確率があると言う事が出来る訳です。これは、どう考えても不可避なのです。

起きる事が当たり前なのに、起きた時に慌てるのでは、そもそもそのシステムを信頼出来ないという事です。そしてそのシステムの特徴を理解していないとも言えます。

しっかりとそのシステムを調べましたか？過去の記録を取って、実際にどういう成績だったかを自分の目で確かめましたか？

どうしても人は自分が信じたものに自信がありません。自分が決めた事がもし間違っていたら、誰に責任を転嫁する事も出来ず、

ただ自分が痛みを感じてしまうからです。それをどうしても避けたいのが人間です。ですが、自分の人生は自分のモノです。

**最後に決断するのは、結局、自分なのです。**

だってそうですよね？最後にマウスをクリックしてエントリーを決めるのは、それこそ自分しかいないのですから。3連敗が当たり前のシステムでしたら、それこそ何も心配する必要はありません。

ですがその事を知っていなければ、そのシステムを信頼して使う事は出来る訳がありません。負け続けた時、再度、そのシステムが本当に大丈夫かどうか、検証してみる事が大切です。

そうすると、結局、自分が一人で思い悩んでいる事が、あまり意味のなかった事だと気付く事が出来るでしょう。

いくつかの事柄を出しましたが、如何でしたでしょうか？

損ばかりが続き継続的に資金が減って行くのは問題ですが、1回2回のトレードで損失を出した程度で「このシステム（ロジック）は使えない」と判断する事は出来ません。

正確には

「損失を出す事で自尊心が傷付くので、一旦、ストップ注文を取り消してしまおう」

「損失が出ていて決済をする事は資金も減るし、自尊心も傷付くし良い事がない。だから嫌だ」

「私がマーケットで勝てないのは、私が無知だからではなく、マーケット攻略が難しいだけだ」

という本音をシステム等に責任転嫁して、自分を誤魔化し、結果的に自分の足を自分で引っ張っている為、言い訳をするトレーダーは思うように資金を増やす事は非常に難しいでしょう。

- ・ストップ注文が成立するのが嫌なのでストップ注文を外そう。
- ・含み損になるのが嫌なので含み益の時に決済してしまおう。
- ・負けるのが嫌なので多少リスクが大きくても勝率が高い方が良い。
- ・連敗が続いてコレを取り返さねばならないので取引量を増やすしかない。

等々、全て自分自身への言い訳にしか過ぎません。耳障りの良い言葉を出して自分を誤魔化しているだけです。トレーダーにとって代表的なセルフサボタージュの対象です。

大切なのは資金です。自尊心ではありません。

[▲目次へ戻る▲](#)

## ❖第7章：(4) ——ライブトレードでは多くの妨害に遭う！？——

### 1. デモとライブで値動きが違う？

デモ口座とライブ口座を見比べてみると面白い事に気付く事があります。それは、デモ口座とライブ口座の値動きが違う場合がある…、という事です。これはなかなか面白いもので、この値動きの違いに、FX会社の思惑が見え隠れしていると言っても過言ではありません。

その為、例えば、とあるトレーディングシステムを調査する際、デモ口座で表示されているレートでやってもあまり意味がありません。

必ずライブ口座を開設し、そのレートで検証を行なう事が大切です。

値動きの違いにより、デモでは通用したものが、ライブでは通用しにくくなる可能性があるからです。

デモとライブに環境の違いがあるので、実際にトレードする口座で検証をするべきである…という事を、理解しておく必要があります。

[▲目次へ戻る▲](#)

## 2. ライブだとスリッページが発生して来る！？

先ず初めにスリッページとは何ぞや？、となるかと思えます。

説明しますと、狙ったレートと実際に約定したレートに差が出る現象、またはその差自体の事を「スリッページ」と言います。

例えば、ドル円で 89.61 で買いの成行注文の注文ボタンを押したのに、実際に約定してみたら、89.63 になっていた、という現象をスリッページと呼ぶ訳です。

さて、デモではスリッページがなく、サクサク注文が入ります。

ところが、ライブになると途端に指定したレートで注文が通りにくくなり、下手すると、ポジションを持てなかったりする場合があります。それは一体、何故でしょうか？

それは、「**ライブだから**」です。

ライブであるが故に、実際に買い手がいて、売り手がいて、それで売買が成立します。そのどちらかが欠けていれば、そのレートでの注文が採用されず、レートが動いて行くのです。

ですので、それを許容するかしないか、許容するならどの程度するのかを、予め理解しておく必要があります。

[▲目次へ戻る▲](#)

### 3. 儲け過ぎると口座が潰される！？

実は、FX で短期的に相当儲けてしまうと、その口座を潰されるという話があります。

FX 会社は、基本的にスキャルピングトレーダー（スキャルパー）を嫌います。何故なら、スキャルピングがサーバーに非常に負荷を掛けるからです。

但し、それは言い訳のようで、実際には超短期トレード自体が FX 会社にとって好まれないようです。

と言うのも、インターバンクにはルールがあり、ポジションを持ったら 30 秒以内に決済してはいけない…、というルールがあるそうです。

しかし、FX 会社は 30 秒云々に関わらず、問題なく注文を通して行きます。とすると、一体、どこに問題が出て来るのでしょうか？

顧客サイドは注文が出せていますので、こちら側には問題はありません。とすると、問題が出て来るのは FX 会社サイドになって来ると推測出来ます。

そもそも FX 会社は顧客から注文が来たら、それをインターバンクにアクセス出来る銀行に注文を出します。そしてその注文がインターバンクに入る訳です。

この時、顧客が 30 秒以内に決済してしまったら、リスクを背負うのは FX 会社と銀行になってしまいます。この順番で一番不利益を被るのは、順番が一番遅い FX 会社になって来ます。

このリスクを背負いたくない FX 会社が、スキャルピングを繰り返すトレーダーを毛嫌にするのは、もっともな事と言えるでしょう。

[▲目次へ戻る▲](#)

#### 4. ディーリングルームによる、レートの操作が行なわれている！？

全てのFX会社が行なっているとは一概には言えませんが、恐らく、ほぼ全てのFX会社がレートを操作しています。複数の業者のチャートを並べてみると、それが良く分かるかと思えます。

ある特定のFX会社ではそれ程、値動きがないのに、別なFX会社では上下に良く動く。

これを見ると、FX会社ごと裏で色々「何かをしている」と見る事が出来ます。そうでないと、そこまで値動きが違うという事を説明する事が出来ません。

インターバンクレートは誰が見ても同じ筈です。

ところが、それが銀行に降り、そしてFX会社にまで来た時に、それぞれが何らかの操作をしています。基本的には自分たちの利益になるような操作ですね。

具体的にどういった操作が行なわれているかはブラックボックスなので不明ですが、それをベースとしたレート操作を行なっています。

レートの操作が可能という事ですから、意図的に顧客の注文を通さなかったり、通りにくくしたりといった事をやる事も出来ます。

これは、**ディーリングルームという存在がそれを実行**しています。

逆に言えば、ディーリングルームを設置していないFX会社は、設置しているFX会社と比べて、よりクリーンである…、と言う事も出来ます。

[▲目次へ戻る▲](#)

## 5. FX会社はトレーダーの注文状況を見れる！？

為替を学んで行くと、「ストップ狩り」という言葉を聞く機会が出て来るかと思います。

どういう事かと言うと、顧客が出しているストップロス(ロスカット)を意図的に発生させ、ポジションを強制的に解消させた上で本来の動きをさせる…、という意味です。この、意図的に発生させる事がFX会社には出来てしまうのです。

と言うのも、実は彼らは顧客の注文状況を把握する事が出来ます。つまり、どこにどんな注文が溜まっているのかを見る事が出来るのです。

前項で書いたように、レートの操作を行ない、顧客のポジションを強制解消させて来ます。何故、意図的にストップに引っ掛けようとするのでしょうか？

それは、彼らにとってそのポジションが、何か都合が悪いポジションだから、と言う事が出来るからではないでしょうか？

つまり、買いポジションが溜まっているのであれば、買いポジションを持たれている事に何か問題がある。買いポジションを持っている連中が儲かって貰っては困る…、という何かがあるの恐らくですがあるのでしょうか。

### **相場とは需給関係があって初めて動きます。**

そこで大量の買いポジションがあり、相場が上昇して行くとしたら、買いポジションを相殺する形で売りポジションが減って行きます。一定数の売りポジションが相殺されて行ってしまうと、そこで相場が止まります。需給関係が均衡する訳ですね。

この一連の流れの中で、FX会社が損を被るとしたらどういう理由でしょうか？FX会社が損を被るとは、単純に為替差損を出してしまう時か、儲け損なった時か…、です。

ここまで来たら、ぼんやりと何故、ストップを狩る必要があるのか見えて来るかも知れません。

## 【ファーストステップFX】Part1第7章ライブトレードへ向かう

彼らは先ず自分たちの利益を確保しようとし、顧客の大量のポジションが、彼らにとって不利になってしまう可能性がある、という事です。

勿論、これだけが理由ではないと思います。あくまで可能性の一つです。

その為、逆に言えば、みんなと同じ行動を取る事自体（同じような位置にストップを置く事が）危険だという事が分かります。

そういった意味でチャートマスターが推奨する、ストップロスレートの末尾を3か7にするという重要性が理解出来るかと思われます。

[▲目次へ戻る▲](#)

❖第7章：(5) ☆★★第7章のまとめ☆☆☆

- ・初めから取引量を上げるのではなく、自信を付けるために、最小取引単位から始める事！
- ・デモは資金が減っても特に何も思わないが、リアルだと実際にお金が減って行く事から、プレッシャーになる！
- ・ライブでは、FX 会社が様々な手を使って顧客からお金を奪おうとして来る！

[▲目次へ戻る▲](#)





**Part1 一流トレーダーへの道を進む為に  
第7章 ライブトレードへ向かう  
株式会社チャートマスター**